

タコ？それとも貝？ 水中ぷかぷか「タコブネ」浮遊 鳥羽水族館にお目見え

2016/9/30 10:51

【鳥羽】タコ？それとも貝？ 古代生物アンモナイトのような殻を持ち、海を漂うタコの仲間「タコブネ」が鳥羽水族館（鳥羽市鳥羽三丁目）に入館した。国内の水族館で見られるのは同館のみ。海水を吹き出したり、空気を殻に取り込んだりしながら、ぷかぷかと浮遊する姿に来館者から「かわいい」と人気を呼んでいる。

今回、入館したのは南伊勢町で二十六日に水揚げされた個体で殻の大きさは約六センチ。タコブネは成長すると殻径約十センチにまで大きくなるため、若い個体とみられる。オキアミなどを食べ、食欲旺盛だという。

タコブネは、同じく殻を持つタコ「アオイガイ(カイダコ)」の仲間。太平洋などの暖海域に生息し、水深二百メートルまでの表層付近で泳ぎながら稚魚や甲殻類などを捕食する。

殻を持つのはメスのみで、腕からカルシウム質の成分を分泌して殻を形成する。殻は、中に空気を取り込んで浮力を調整するほか、卵を守るための「ゆりかご」の役割を果たしていると考えられている。

全国各地で見つかるが、採取例は少なく、繊細な作りをした殻は貝殻の収集家から珍重されている。殻以外は食用可能で、他のタコ等と味が変わらないという。

同館では、過去三回ほど飼育を試みたが、いずれも約一週間で死んでしまったため、長期飼育の成功例はない。飼育担当の森滝丈也さん(46)は「飼育が難しいが、少しでも長く飼育し多くの人に見てもらいたい」と話していた。



【殻に入って泳ぐタコブネ＝鳥羽市鳥羽3丁目の鳥羽水族館で】